

審査の結果の要旨

氏名 西澤 知江

皮膚・排泄ケア認定看護師が病院で褥瘡管理体制を組織化するために、スキルに関するコンピテンシーを発揮するプロセスにおいて、その基盤に存在する動機、態度に関するコンピテンシーを明らかにし、コンピテンシーモデルを構築した。下記の結果を得ている。

データは、コードが 7,070 個抽出され、それらを集約し、最終的に< >で示したサブカテゴリーの下位概念が 47 個、<< >>で示したサブカテゴリーが 22 個、[] で示したカテゴリーが 10 個、『 』で示したコアカテゴリーが 1 個生成された。分析の結果、以下の点が明らかとなった。

1. 皮膚・排泄ケア認定看護師は病院において褥瘡管理体制を組織化するために、『褥瘡を治癒させることを目指し、卓越した褥瘡管理技術を駆使しながら、横断的活動をするために多職種との関係を調整する能力』を発揮していた。このことから皮膚・排泄ケア認定看護師は褥瘡を治癒させることと、調整力を発揮することを目標としていたことが明らかとなった。
2. 皮膚・排泄ケア認定看護師は褥瘡管理に関わる職種別に異なるコンピテンシーを発揮していた。この中で特に処置において競合する可能性の高い医師に対して<<卓越した褥瘡管理技術によって褥瘡を改善または治癒させ専門性の理解を得る>>ことと<<裁量権を脅かさないと保証し協働する>>コンピテンシーを発揮し、皮膚・排泄ケアのスペシャリストとして理解を得て協働する関係を築くことは重要であった。
3. 皮膚・排泄ケア認定看護師はスキルに関するコンピテンシーを段階的に発揮していた。このプロセスでは、皮膚・排泄ケア認定看護師が最終的に多職種をチームとしてまとめ、様々な職種の専門性を引き出すことを可能としていた。これは、医師を含む多職種からなるチームのリーダーである皮膚・排泄ケア認定看護師にとって重要なプロセスであった。
4. スキルに関するコンピテンシーを発揮する際に基盤となる動機、態度に関するコンピテンシーを明らかにした。その結果、<医師から独立して活動したい>と<医師と対等に意見を交わしたい>という動機に関するコンピテンシーが、褥瘡管理活動の原動力になっていたことが示唆された。さらに<自分が提供する褥瘡管理技術が最善であると自負する>という態度に関するコンピテンシーは、独立して専門性を発揮する上で重要であった。

以上、本研究によって明らかになったコンピテンシーモデルは、経験の少ない皮膚・排泄ケア認定看護師が褥瘡管理体制を組織化する上で目指すべき「褥瘡を治癒させる卓越した褥瘡管理技術」と「調整力」の発揮といったゴールを示すことが可能となった。さらに、その目標に向かってどのようにコンピテンシーを発揮すべきかプロセスを提示した。このモデルは、皮膚・排泄ケア認定看護師への継続教育に貢献するだけでなく、今後、組織で横断的に活動する他分野の認定看護師への適用が期待でき、学位の授与に値するものと考えられる。